

第1回 医療フォーラム

第3段階の
たたかいた
スタート!!



227名参加のもと開催!

8月31日に「AP浜松町」において、鉄道業における医療のあり方を学び、政策提言していくことを第一の目的とし、鉄道部門と医療部門の信頼関係を向上させ安全な鉄道を創っていくために、第1回医療フォーラムを開催しました。

たしろ参議院議員にも駆けつけていただき、「政策課題に高めて国政で実現していくと」力強いあいさつをいただき、共に学びました。



産業医科大学 堀江教授講演「産業医のあるべきすがた」(要旨)



- ◆産業医学とは、職業病をなくしていく、予防するための学問であること
- ◆安全衛生法では事業者が職場における安全と健康を確保することとなっており、産業医は中立の立場ではあるが、衛生委員会の最終判断は事業者が行うことから衛生委員会では議事録を残すことが重要
- ◆産業医は事業場に勤める全ての労働者の健康に責任を持つ立場であることなど産業医学の重要性についてわかりやすく講演をいただきました。

その後、「JR東日本における医療機関の現状」と「安全を最優先する風通しの良い職場をつくるため」の問題提起をJR東日本健康推進センター分会とJR仙台病院分会、東京地本から受け討論をしました。鉄道部門の組合員からは、産業医に対する不信任やメンタルヘルスに関する問題、医療部門の組合員からは、産業医不足の職場現状や悩み、地方健診センターの実情などが出され、活発な討論がおこなわれました。

本間医療部会長のまとめ(要旨)

- ◆講演や問題提起、討論内容について、関係各所と連携をとりながら解決していくための取り組みをしていく。
- ◆法律など企業内で解決出来ないことなどについては、たしろ参議院議員と連携を取りながら提言していく。

仲間の健康と安全を第一にする企業風土・職場環境を創るために全組合員でたたかおう!

※詳細については、緑の風9月15日号及び討議資料でお伝えします。